



諒閣中に付き年始欠禮任り候

親切な買ひ良  
良品を安く賣る店

家庭金物 平町登丁目  
ガラス食器 關原商店へ  
電話五六〇番

諸機械製作業  
武藏鐵工所  
電話五十四番 平町古鍛冶町三〇

山家メリヤス店  
山家重吉  
電話六〇五番

大村屋旅館  
館主 大村一郎  
植田代理店主幹 藤田淺之助

御旅館

住吉屋支店  
酒井清  
電話一四九番  
平停車場前

方圓堂印房  
附品刻彫式刻  
平町二丁目

吉野鐵工場  
平町鍛冶町五

諸橋吳服店  
平町

遠藤帽子店  
平町

小松崎洗張店  
平町二丁目(平館前)

牛肉御料理  
石川亭  
電話四三番

山本屋旅館  
平町三丁目 電話三十八番

多田井商店  
平町大工町

大蒲燒御料理  
松本樓  
電話百十三番 平町南町

活版印刷諸帳簿製本御依頼に應ず  
鈴木活版所  
平町長橋町

和洋酒類商  
廣瀨支店  
平町田町 電話五四番

蒲鉾製造  
藤市  
平町二丁目 電話三〇五番

平西村屋藥舖  
電話三三番

昭和二年 丁卯 年略

大	廿八	廿九	三十	三十一	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十																											
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土																											
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一

福島縣農工銀行平支店  
支店長 河西八十治  
電話三六八番  
平町四丁目

平町料理屋組合  
湯本信用無盡株式會社  
伊藤藤一  
平停車場正前

御料理 柳家  
御料理 白木屋  
平町南町十番地  
平南町六四番地

旅館 やたつ  
平高倉  
前場精

本社は社會の!!!犠牲者也 盡さざれば報ひられず

一年を顧みて

安島重二郎

穴戸屋魚問屋

平藝妓屋組合

第二十六期 貸借對照表

夫にも許されざるこ  
とを不倫を行つて来た  
たものもあるであらう本家  
に知らせたいや吉日を

諒閣中に付き年始欠禮任り候

石城郡山田村

電話一六八番

貸借對照表

本社は社會の!!犠牲者也。盡さざれば報ひられず。

すぎ來し 一年を顧みて 思ひ出等無かつたか 慚愧して向上せよ

夫にも許されざる... 夫にも許されざる... 夫にも許されざる...

取消... 昨八月三十日日本紙第六... 昨八月三十日日本紙第六...

無明の凡夫を訓して... 無明の凡夫を訓して... 無明の凡夫を訓して...

夫にも許されざる... 夫にも許されざる...

自己... 自己... 自己...

取消... 取消... 取消...

四倉會社 銀行組合... 四倉會社 銀行組合... 四倉會社 銀行組合...

安島重三郎 植田水電氣株式會社 株式會社四倉銀行 中野甲藏 川瀨炭礦常礦業所 高橋龜松 中野吳服店 堀部留造

穴戸屋魚問屋 丸市屋魚問屋 伊藤屋魚問屋 越乃家 坂田金物店 吉田蒲鉾店 吉村製綿店 百澤商店 勇屋履物店 服洋店 無盡商會 根本時計店 大谷時計店 大谷久藏 平營業所

平藝妓屋組合 第二十六期 貨借對照表 資本金 50,000.00 諸積立金 3,300.00 社員職工積立金 2,500.00

新妻盛 取締役社長 四倉電氣株式會社 大正十五年十一月卅日

遠藤帽子店

平材木商組合

平停車場正前

平南町六四番地



候上申慮遠御 摺挨御の始年で謹き付に中間諒

### 社會式株業工江堀

(番九一五話電) 町平縣島福

監査役	監査役	監査役	監査役	取締役兼支配人	取締役	取締役	取締役	取締役	専務取締役	取締役社長
吉田盛治	小林良輔	林松枝	渡邊武雄	鈴木唯治	井川得良	佐藤禎二	鈴木康之	戸田兵藏	江口忠一	堀江定吉

### 社會式株業工瓦年萬

(番八三話電) 前場車停町倉四

監査役	取締役	取締役	取締役	取締役社長
大和田安太郎	鈴木唯治	戸田兵藏	江口清	江口忠一

の紙本  
**信主義**  
 係表  
 本紙は本社の私利私欲を以て社会共有の公的言論機關也常紙面を開放して何人の爲めにも  
 其利用を快諾し特主として實業界の公的言論機關となり努めて實益を主眼とす  
 本紙は絶対不可侵の権威を以て論議公正にして愚劣無價値の記事を採らず磐城地方唯一の  
 本紙は本社の私利私欲を以て社会共有の公的言論機關也常紙面を開放して何人の爲めにも  
 其利用を快諾し特主として實業界の公的言論機關となり努めて實益を主眼とす  
 本紙は絶対不可侵の権威を以て論議公正にして愚劣無價値の記事を採らず磐城地方唯一の

四十五大) 第三號  
 石城銀行組合  
 諒閣中に付き年  
 始欠禮土り矣